

学 校 名	令和6年度 山形市立鈴川小学校 山形市鈴川町三丁目7番10号 TEL 6 2 2 - 2 1 5 8 FAX 6 3 3 - 9 5 7 1	校 長	鈴木 伸治
		研究主任	荒井 敦子
研 究 主 題	「気づき、考え、働きかけ、受けとめる」子どもの育成（第二次） —子ども主体の学びの追究から「ともに、暮らしをつくる」—		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	学校教育の目指す資質能力とは、 正解の見えない未解決な課題に対して自らの「個性を生かし多様な人々と 協働して新たな価値を生み出す力」（みんなが納得し合意のもと最適解を導き出す） ではないだろうか。 子どもたちが人生を歩む上で様々な問題場面に出会う。それらの問題を解決するために、問題を正確に把握し（気づき）自分事としてめあて（課題）をもって問題解決に挑む主体的な態度（考え）が必要であると考え。さらに、自分一人では到底解決できない問題は、専門家や仲間と解決しようとする協働的な態度（働きかけ）も必要だろう。そして、自分なりに振り返り、その問題解決の方法や最適解を修正・更新（受け止め）し、自分らしく、暮らしをつくる人になってほしいと願っている。 そのためには、鈴川小学校の子どもたちの「ともに暮らしを創る」ために必要と考える資質・能力を捉えて、子ども主体の授業を充実させていくことが求められる。これまで以上に、子どもの実態や学校教育目標の具現化に必要な教育内容を教科横断的な視点のもとに構成した授業作りを推進していきたい。 さらに、学年での生活科や総合的な学習の時間、各教科の学習の推進や指導部での特別活動の推進を図り、授業づくりを関連させていく。 今年度は、これまでの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の推進と共に、令和の日本型学校教育の充実を推進し、「気づき・考え・働きかけ・受け止める」子どもの育成を目指して校内研究を進めていく。そして、全ての子どもを「自ら暮らしをつくる子ども」「ともに、暮らしをつくる子ども」に育てていきたい。		
研 究 の 目 標	第1回研究全体会では、研究主題「 気づき・考え・働きかけ・受けとめる 」子どもの姿や言葉について話し合われた。その中で「 気づき・考える 」子どもたちの姿や言葉、それらを引き出す手立てなどは活発に意見が出た。しかし、本校の研究の独自性のある「 働きかける・受けとめる 」という子どもの姿・言葉やそれらを引き出す教師の手立てなどでほとんど意見が出されなかった。つまり、その部分でぼんやりとしたイメージで「どんな姿？」まで言語化できるまでは至っていなかった。そこで、 <u>今年度の取り組みを通して、特に学習の過程の「働きかける姿や言葉」とは？それらを引き出す手立てについて、理解を深めていきたい。</u> また、先生方から 子ども主体の学びの追究 で大切にしたいキーワードとして①「 あたり前のその先へ 」②「 自分事 」③「 変容の自覚化 」が出された。私たち教師は、当たり前だと思っていた日常やそれまでの自分の知識や概念とのずれや違和感に気づき「あれ？」「もっと」と、自分事の課題から1人1人の子どもの学びが進められているのか？学びを通して変容を自分で自覚して学習の手ごたえを感じ取っていたか？を大切にしながら毎時間の授業を作っていきたい。また、子ども主体の学びの追究から『 自ら暮らしをつくる子ども 』『 ともに暮らしをつくる子ども 』につながる資質能力とはどんなこ		

	となのか、その能力と力をつけるための手立てを探っていきたい。最後に、子どもと毎日関わる私たち教師は、子どもの「気づき」に「気づき」、受けとめ、学びにつなげられるようにしていきたいと共通確認した。
研究 の 内 容 及 び 方 法	研究の内容 1 子ども主体の学びの研究をする ・子どもは有能な学習者にとらえ→自ら学ぶ→学習者中心に授業を作る ・具体的な姿を通して実践研究を積み上げていく。 ・子どもの姿をもとにした事後研究会とする。 2 職員の協働研究を大切にする ① 学年での事前研究・研究授業・事後研究を推進する。 ② 授業者とその学級の児童の姿から学ぶ意識をもつ ・参観者は、学習活動案・研究授業・事後研究会で、授業者と児童の姿から成果を見出し、日頃の実践に活かすようにする。授業者は、授業後と事後研究会後で、省察した自分の成果や課題を子どもの姿から見出し、日頃の実践で活かしたり解決したりする。 ③ 運動会や児童会などの特別活動では、全職員で校内研究を意識しながら全校児童の支援にあたる。 3 令和の日本型学校教育への移行 ① 能動的な学習の文脈（主体的・対話的で深い学び）を意識した単元づくり。 ② 一人一人に応じた学習の文脈（個別最適な学びと協働的な学び）を大切にして個別最適な学び・指導の個別化・学習の個性化を探究していく。 学習の流れ ① 情報の受信（インプット） → 情報を主体的に受信したくなる課題設定 ② 情報の発信（アウトプット） → 表出することで自覚化、異なる多様な他者の情報の分析 ③ 情報の再構築 → 再思考・更新・修正・一般化・概念化 まとめとふり返りを大切にしていく ・各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びについて、まとめることができる ・児童が学習のまとめやふり返りを自らの言葉や文字で表現できるようにする。 自らくらしをつくる、ともにくらしをつくる資質・能力にどのようにつなげていけるか記録し、検証していく。 （振り返り→気づき→課題設定→情報収集）統合化メタ認知 学習の構造化・連続性・日々のくらしへ 令和の学び ① 情報の受信（インプット） ② 情報の発信（アウトプット） ③ 情報の再構築 目指す子どもたちの学びの姿 好奇心・自立的欲求 個別に学ぶ前 目的や課題、見通し（ゴール・プロセス）を明らかにし活動の方法や内容や方向性を自覚する → 学習活動 言葉による自覚 手応えの実感 → 充実感・達成感・自己有能感・一体感 個別に学ぶ場面 ① 習熟度、興味関心、学習方略、認知特性など、子どもの多様性に応じて設計する ② どんな情報を、どこで、どのようにして獲得するのかを設計する → 個別に学んだ後 交流や振り返りで知識が繋がりが精緻化し、手応えを実感する

研究の計画

4 研究の計画・組織
(1) 校内研究会の全体計画

	日程	内容(研究授業学級・授業者)	担当	アドバイザー
第 1 回	5月2日(木)	主題・計画の提案	推進委員	
第 2 回	5月20日(月)	授業研究会【大研①】 1年2組	2年	
第 3 回	7月 5日(金)	授業研究会	学年	
第 4 回	7月23日(火)	授業研究会【大研②】 6年3組	5年	
第 5 回	10月25日(金)	授業研究会	個別7	
第 6 回	11月 6日(水)	授業研究会	個別6	
第 7 回	11月11日(月)	授業研究会【大研③】	個別3	
第 8 回	11月19日(火)	授業研究会・中研 4年3組	3年	
第 9 回	12月4日(水)	授業研究会【大研④】 3年1組	4年	
第10回	12月 11日(水)	授業研究会 個別2	個別	
第11回	12月13日(金)	授業研究会 個別5	個別	
第12回	12月18日(水)	研究紀要・成果と課題について	各学年	
第13回	12月20日(金)	各学年のカリキュラム・デザイン (学年経営案)振り返り	推進委員	
第14回	1月 22日(水)	研究紀要の綴じ込み	推進委員	
第15回	2月7日(金)	全体の成果と課題と来年の方向性	推進委員	

※ 同学年の学級は、同じ教科・同じ単元の授業を行い、授業創りに協働的に研究を行う。
授業研究会を学年部(低・中・高・個別)で行う。【大研】は学年部で1授業提案。【大研】ではない学年は中研。【大研】【中研】以外の先生は小研として授業を行う。

(2) 研究推進委員について

校長	教頭	1年	2年	3年	4年	5年	6年	個別	教務
鈴木	有川	荒井	高橋	村上	横山	青野	佐藤保	石沢	多田
顧問	顧問	主任	副主任	記録	会場	記録	用具	会場	日程

- ・研究主任 荒井敦子 ・副研究主任 高橋真子(事後研運営)…次第、協議の視点
- ・会場準備 ・用具準備(マジック・画用紙・マグネット・付箋)
- ・記録写真